令和8年

千葉豪雨に関するアンケート
結果報告書

一般社団法人千葉県民間病院協会
千葉県千葉市中央区富士見2-3-1 塚本大千葉ビル6階

調査の概要

1.調査目的

令和８年千葉豪雨に関する会員病院の実態調査

2.調査項目

1　医療機関の基本情報

・管轄保健所・許可病床数

・ハザードマップ上の位置づけ

2　過去及び今回の水害被害の有無と状況について

・過去に水害（浸水・周辺道路の冠水など）を受けたことがあるか。

・ハザードマップ想定区域内・想定区域外

・今回の被害状況について（具体的な内容）

・建物、設備の被害

・医療機器の被害

・インフラの停止

・周辺道路の冠水による影響

・その他

3　（被害があった医療機関のみ回答）医療機能への影響について

・水害発生時に病院機能の維持にどのような支障がでましたでしょうか。

4　水害対策・防災体制の構築について

・水害も想定した「業務継続計画（ＢＣＰ）、「防災マニュアル」を策定しているか

5　具体的な設備面での浸水等対策として、既に実施したことにより被害を回避できたものがあるか。

6　水害を想定した避難訓練や防災研修を定期的に実施しているか

7　今回の災害で病院として新たな気付きについて（※反省や有効だったこと）

8　国や県等に対して求める支援や要望があれば自由記載

4.調査対象

1. 一般社団法人千葉県民間病院協会　会員病院

2. 対象数　129病院

5.調査時期

令和8年9月2日～令和8年9月30日

6.調査方法

インターネット

1　医療機関の基本情報

・管轄保健所別病床数（回答があった医療機関の計）

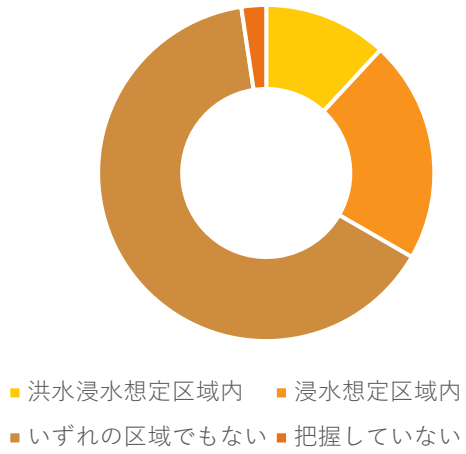
千葉市保健所	1,078	香取保健所	0
習志野保健所	568	海匝保健所	185
船橋市保健所	804	山武保健所	314
市川保健所	759	長生保健所	268
松戸保健所	868	夷隅保健所	643
柏市保健所	200	安房保健所	501
野田保健所	0	君津保健所	184
印旛保健所	799	市原保健所	141

・許可病床数別回答数

区分	件数	割合
1～100	10	23.8%
101～200	18	42.9%
201～300	6	14.3%
301以上	7	16.7%
0	1	2.4%
合計	42	100.0%

・ハザードマップ上の位置づけ

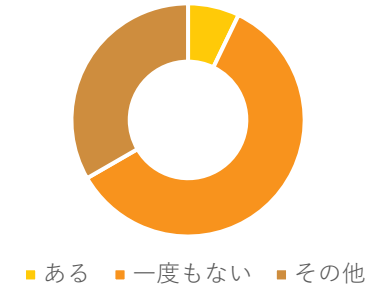
洪水浸水想定区域内	5
浸水想定区域内	9
いずれの区域でもない	27
把握していない	1



2　過去及び今回の水害被害の有無と状況について

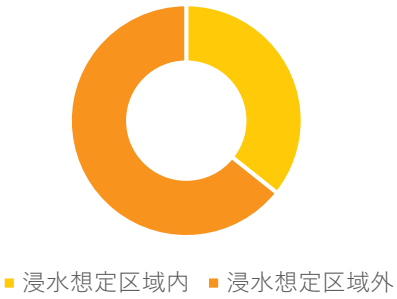
・過去に水害（浸水・周辺道路の冠水など）を受けたことがあるか。

ある	3
一度もない	25
その他	14



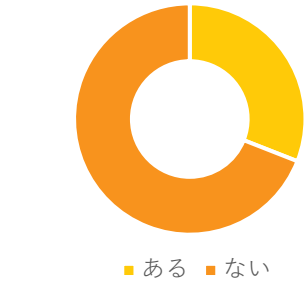
・ハザードマップ想定区域内・想定区域外

浸水想定区域内	15
浸水想定区域外	27



・今回の被害状況について

ある	13
ない	29



・（被害があった医療機関のみ回答）具体的な被害の状況

・建物、設備の被害

（複数回答）

被害区分	件数
雨漏り・室内浸水	9
駐車場冠水・浸水	2
設備故障（空調・ポンプ等）	3
エレベーター不具合	1
非常設備への影響（誘導灯等）	1
発電設備への浸水	1

アンケート結果では、雨漏り・浸水被害が最も多く確認され、病室・診察室・廊下・地下施設など院内各所で発生した。排水能力不足に起因する冠水も複数報告され、空調設備、ポンプ、エレベーター、非常用設備への影響もみられたことから、施設の防水・排水対策および重要インフラ設備の保全強化が必要である。

・医療機器の被害

区分	件数
被害あり	1
被害なし	12

12施設は「被害なし」と回答した。被害が報告されたのは1施設で、建物内への浸水が発生していた。全体として大きな被害報告は少なかったが、浸水事例が確認されたことから、引き続き施設の防水・排水対策について注意が必要である。

・インフラの停止

被害内容	件数
停電・瞬間停電	2
設備故障（診察券発行機・中央監視装置）	1
空調設備の機能低下	1
建物内の浸水・湿潤（床の湿り）	1

アンケート結果では、多くが被害なしと回答した。一方、4施設で何らかの影響が報告され、停電に伴う診察券発行機・中央監視装置の故障、瞬間停電、エアコン機能低下、床の湿り等が発生していた。特に電源障害による設備停止がみられたことから、業務継続に向けた電源設備の強化が課題と考えられる。

・周辺道路の冠水による影響

職員への影響	医師を含む職員十数名が帰宅困難
	職員の出勤に影響
	帰宅途中の職員が冠水被害に遭遇
車両被害	職員車両の水没（把握分で2台）
	冠水により車両が損傷
交通への影響	故障車による渋滞
	周辺道路の冠水
救急搬送への影響	一時的に救急車搬入路の冠水したが大きな支障はなかった

今回のアンケートでは、約4割の施設で職員や交通への影響が報告されました。特に、豪雨や冠水により職員の帰宅困難や出勤への支障が発生しており、医師を含む複数の職員が施設内で待機せざるを得ない状況がみられました。

また、道路冠水に伴う車両の水没・損傷や交通渋滞も発生しており、通勤手段の確保や安全な帰宅支援が課題として挙げられます。一方で、救急搬送経路への影響は限定的で、診療機能への直接的な支障は大きくなかったことが確認されました。

・その他

職員への影響	職員宅の床上浸水により出勤困難
	JR運休が翌日以降も続き、職員配置に支障
	電車見合わせにより医師・スタッフの通勤へ影響
	帰宅途中に冠水被害を受けた職員あり
交通への影響	正面道路で冠水
	一般車両の立ち往生が発生
	バスの運行停止
施設への影響	中庭に溜まった雨水が院内へ浸水

3　医療機能への影響について

・水害発生時に病院機能の維持にどのような支障がでましたか。

	当てはまる	やや当てはまる	影響なし
外来診療の一部又は全面休診	2 4.76%	9 21.43%	31 73.81%
入院患者の転院・避難搬送実施	3 7.14%	1 2.38%	38 90.48%
手術や特殊な検査（人工透析など）の中止	1 2.38%	3 7.14%	38 90.48%
物資（医薬品・食事・水など）の補給途絶	1 2.38%	3 7.14%	38 90.48%

アンケート結果では、いずれの項目も「影響なし」が最も多く、全体として大きな影響は限定的であった。一方で、「当てはまる」、「やや当てはまる」を合わせると「外来診療の一部又は全面休診」は26.19%、「入院患者の転院・避難搬送実施」、「手術や特殊な検査（人工透析など）の中止」、「物資（医薬品・食事・水など）の補給途絶」はいずれも9.52%となり、一部の施設・部署では業務や運営上に何らかの影響が生じていたことが確認された。

4　水害対策・防災体制の構築について

・水害も想定した「業務継続計画（ＢＣＰ）、「防災マニュアル」を策定しているか

状況	件数	割合
策定しているが、見直しはしていない	12	28.60%
現在策定中である	10	23.80%
作成しており、定期的に見直している	11	26.20%
策定していない	9	21.40%

5　具体的な設備面での浸水等対策として、既に改善し、実施したことにより被害を回避できたものがあるか。

- 排水ポンプの増設　壁面の補修
- 止水板を設置したことにより、院内への浸水は防御できた。
- 排水ポンプ増設
- 雨水漏洩点検及び修繕実施
- 外壁・屋上の防水工事を昨年実施したことで、昨年以前に発生していた上層階の雨漏りは発生しなかった。
- 今のところ病院が高台にあるため、特別な対策はおこなっておりません。
- 排水ポンプの点検など。
- 地下の入口は高さ40～50㎝の段を超えてから地下階段がある
- 2022年の新築移転時に地下施設を設置しなかった。
- 備蓄確保
- 排水ポンプの増設、止水板の設置、土嚢の準備
- 雨水漏洩点検及び修繕実施、排水ポンプ増設、物資の備蓄確保

6　水害を想定した避難訓練や防災研修を定期的に実施しているか

回答	件数	割合
実施していない	27件	64.30%
不定期に実施している	9件	21.40%
年に1回以上実施している	6件	14.30%

回答者42施設のうち、「実施していない」が27施設（64.3%）と最も多く、約3分の2を占めた。一方、「不定期に実施している」は9施設（21.4%）、「年に1回以上実施している」は6施設（14.3%）であった。

訓練や見直し等の取り組みを定期的に実施している施設は14.3%にとどまり、多くの施設では未実施の状況がみられた。災害対応力やBCPの実効性を高めるためには、定期的な訓練や検証を通じて課題を把握し、継続的な改善につなげることが重要である。特に未実施の施設においては、まずは年1回以上の実施を目標とした取り組みが期待される。

7　今回の災害で病院として新たな気付きについてご記入ください（※反省や有効だったこと）

- 職員の通勤経路の被災状況（冠水道路状況や公共バス運行状況など）の把握が出来なかったこと。
- 台風通過前後の線状降水帯の際に雨雲レーダーを確認し、事前準備を行い、被害を最小限にとどめる。
- 職員食の備蓄等も視野に入れて検討していく必要が有った。
- 排水溝の清掃。（土や葉で排水溝がふさがれていた箇所があった）
- 建物の防水機能の再確認。排水ポンプの設置の必要性。夜間時の緊急招集の方法。
- 中庭が冠水して院内へ浸水するという想定外が発生したが排水ポンプを増設することで防げた。
- 早期の情報収集。
- 職員の安否確認。
- 止水板設置の必要性（今後検討）、今回の豪雨では大丈夫だったが、地下に自家発電等のインフラが集中しており、地下への浸水防止の必要性を改めて感じた。
- 豪雨でも安否確認が必要。
- 病院周囲で3日間洪水となった場合の対策を院内で検討したところ、職員の交代要員の確保は厳しいことから現在いる職員が頑張るしかなく、職員用の食事の確保も課題であることから普段から非常用食を各人で確保することが大事であることを話し合った。
- 気づきとして発令された警報（レベル４，５）が勤務者に届くような仕組みを検討するところ。
- 事前の対策が重要。自前でできる、十分に溝・屋上の落ち葉や泥を取り除いておくことで、回避できるケースがある。
- 職員への帰宅指示のタイミングや、最寄り駅までの送迎などに課題あり。
- 初めてのことで対策を検討中。
- 地下の入口の高さ増しが必要と考えている。（工事は困難かもしれないが防水のための備品等を検討）

- 地震想定はしていたが水害はしていなかった。
- 築浅であるものの数カ所で雨漏りが発生。建築時の想定範囲を超える降雨量でありこれまで定めた基準が全くあてにならないことを痛感している。
- 2019年の台風で、排水溝に葉っぱが堆積したことで建物内が浸水したので、大雨が想定される前に確認することとした。また、今回の豪雨でも排水ポンプが正常に稼働出来ており地下への浸水は免れたが、さらに止水板の設置を検討している。
- 水害対策については不十分な所があるので改善必要。
- 医師の交通手段について、JR外房線の運休の対応。
- 地下が浸水しないようにする必要があり、対策している。
- 雨漏り箇所の把握により、事前の備えとして患者様の不安を最小限にできたように思う。
- 浸水について、地域や地形的な要因によるものではなく、排水等設備施設的な脆弱性によるものと思われることから、今後の検討、対策が必要である。

8　国や県等に対して求める支援や要望があれば自由記載

- 雨漏りの応急対応・修繕、止水板の設置など、建物の浸水・雨漏り防止対策への支援に加え、避難場所・避難経路の情報提供、早期の災害情報発信、必要な物資・人員の支援をお願いします。
- 気候の変動により、今後も今回以上の豪雨が予想されるため、公的インフラの強化が必要と思われます。また、政府は被害を受けた医療機関に対して、現行の2分の1の補助では無く、全額補助の新たなルールを作っていただきたい。
- 防災設備への補助。
- 一般道路の冠水対策。
- 内水反乱への対応。
- 地下に多くが設置されている自家発電のリニューアル等の費用の補助。止水板設置等の内水氾濫対策費用の助成。
  太陽光発電等による自家発電を保管できるインフラ整備に対する補助。
- 備蓄庫を安価で提供頂きたいです。
- 災害援護資金などは、より簡素化して早く使えるようしていただきたい。
- 浸水対策等の補助金支給。
- 被災した場合の迅速な復旧費用支援制度。
- 今までの経験以上に大量の降雨を想定した対策を講じていただきたい。
- 自家発電設備の設置にかかる補助金・助成金があるとよい。
- 対策に必要な補助金メニューを作成して欲しい、特に地下浸水対策。